

編集 後記

本誌5月号は、令和元年初の記念すべき号になりました。新年度はすでに始まっておりますが、改めて気分一新し、業務・研究に励まれることを願っております。

さて本誌は、原著1編、公衆衛生活動報告2編、および資料1編の論文が掲載されています。

原著では、自閉症スペクトラム障害を疑われた児の母親に対してステッピングストーンズ・トリプルP (SSTP) を提供することが、親の養育態度の変化につながることを示していただきました。「健診から診断に至るまでこのような親子を把握している保健師にとってSSTPは、保護者と子どもを支援する方法論として有効である」という言葉が印象的でした。

つづく公衆衛生活動報告では、板戸市が10年間にわたって取り組んできた「板戸食育プログラム」が、教員の食育への関心を高め、児童生徒の食態度の変化を認めたことを報告いただきました。つづく1編では、歯科診療所において歯科衛生士が行った禁煙支援活動は、喫煙本数の減少やニコチン依存度の低下に加え、口腔内状態に対しても良好な変化を認めたことを報告いただきました。

資料では、人型コミュニケーションロボットが介護職員と共同して効果的な運動プログラムを実施できる可能性を示していただきました。参加者の皆さんが、ロボットと一緒に運動している風景は、近未来的でありながらも、なぜか微笑ましく、とてもユニークな取り組みだと感じました。

今回の掲載論文では、いずれも公衆衛生の現場で地道に取り組まれている活動の評価を通して、新たな知見や公衆衛生的に有意義な調査結果を示していただきました。調査研究の素材は、案外、日ごろの公衆衛生活動のうちに隠れているように思います。なかなか調査研究まで踏み出せない会員の方も多いかと思われませんが、公衆衛生専門家のお力添えをいただくなどして、積極的に論文作成にチャレンジされることを期待しております。

(福田英輝)

次号予告 (第66巻・第6号)

原 著

全国の介護保険レセプトを用いた在宅介護のフォーマルケア時間推計……………佐藤幹也, 他
保険者別特定健診受診の有無と健康増進ライフスタイル, ヘルスリテラシー, ソーシャル・キャピタルとの関連……………井本知江, 他
地域在住高齢者における身体・文化・地域活動の重複実施とフレイルとの関係……………吉澤裕世, 他

公衆衛生活動報告

在宅医療推進のための多職種連携研修プログラム参加者におけるソーシャルキャピタル醸成効果: 都市部での検証……………村山洋史, 他